

# NPO 法人 みどり会 会報

第 65 号 平成 29 年 11 月 6 日発行 〒984-0826 仙台市若林区若林 2-5-5 SK ビル 2F みどり工房若林内 NPO 法人みどり会事務局  
家族会専用電話（会員関係の連絡先）080-2812-4835 [9 時～17 時] ホームページ <http://s-midorikai.org/>  
法人代表電話 022-762-7610 FAX 022-762-7611 発行者：理事長 佐藤 わか子／編集：庶務 黒川 洋



## 私の体験と家族会

NPO 法人みどり会  
家族部会長 黒川 洋

今回は、私、黒川自身の体験談と家族会への思いについて述べたいと思います。

私の家族としての体験は、昭和 34 年、私が 10 歳の小学 4 年生の時からで、家族会としての体験は昭和 54 年の 30 歳からの、計 50 数年間という長いものなので、これまでお話しさせていただいた私の体験談は断片的なものばかりでした。

しかし、今年 6 月に宮城県精神障がい者家族連合会（宮家連）で釣舟晴一さん（社会福祉法人 ゆうゆう舎理事長）の講演会『超高齢社会の中の精神障がい者と家族』のお話の中で、黒川がゲスト出演を声掛けられました。その声掛けとは、「どうして黒川さんは、お母さんが亡くなられたのに家族会をやっているの？」でした。このことをきっかけに、一度は会報の中で、もう少しきちんと自分の体験と家族会についての思いを紹介させていただこうと思ったのです。

釣舟さんから私への声掛けは、私のこれまでの体験を振り返り、今後の活動への思いを深めてくれるものでした。

### 母は精神障がい者

昭和 34 年、私は小学 4 年生の頃、母は統合失調症（当時は精神分裂病）で入院しました。父はこのことについて何も言いませんでしたが、祖母が「入院したんだよ。どうしてだか、大きくなったから分かるね。」と言った言葉は覚えています。

母の言動ついて覚えていることは、「家の縁の下に不気味なものがある。この家は乗っ取ら

れた。」というようなことを言ったり、ダンスから衣類を部屋いっぱいに出し尽くして座っている姿でした。

母と病院での面会の日、大きな扉が開いて、広いホールのような所に並んで座って、小さく見えた母が「頭に電気をかけられて苦しい、早くここを出たい。」と言っていた記憶があります。

### 目 次

1～3ページ	私の体験と家族会	みどり会家族部会長	黒川 洋
3～4ページ	平成 29 年度北海道・東北ブロック大会に参加して……	宮家連幹事	後藤くらゑ
5～6ページ	会員からの寄稿	会員の皆さま	2名
6～9ページ	「みどり工房」より施設情報	みどり工房永和台・みどり工房若林	
9ページ	研修会のご案内		
10ページ	みどり会懇談会開催スケジュール		

ずっと後でわかったことは、当時は、日本でも初代の抗精神病薬が普及し始め、やっと退院して通院治療が可能になってきた時期でした。

その後、私の心の中で母は精神病患者で自分はその家族、こういう環境から逃げ出したいという衝動が頭から離れず、家族に迷惑をかけた、逃げ出すこともありました。父と祖母、2人の妹たちと母のことで話し合うことはありませんでした。助けてくれる人もいませんでした。どこへ行っても、家族としてこの病気から逃げることはできないという思い、一生付き合わなければならないという思いは頭から離れませんでした。

### 保健師の訪問と家族会

いつからか泉市（現在の泉区）の保健師さんが家に来て、母や私たち家族の話聞いてくれるようになりました。服薬の大切さや付き合い方を教わった記憶があります。母が、ご近所の方に上り込んで、訳の分からない話をしていると苦情があったとき、保健師さんがその家に出向いて調整してくれたこともありました。

昭和54年、私が30歳の時に保健師さんに声をかけられて家族会（泉市いずみ会）の立ち上げを手伝いました。お世話になった恩返しをしたいという思いがあったからです。会長は70歳くらいの男性Mさんで、私は役員の一、会員数25名位でそのほとんどが女性でした。事務局は当時の泉市担当課だったので、いずみ会での定例会や講演会、見学会などの企画・運営はすべて保健師さんたちがやってくれていました。

私はこの時、初めて同じ体験を持つ他の家族と接して、辛い思いをしているのは自分だけではないと分かりました。新鮮な衝撃でした。他の家族は、ほとんどが息子さんや娘さんが当事者で、私と立場は逆、年齢も皆さんと私は親と子供ほど離れているけれど、同じ悩みを抱えている仲間同士、家族会とは支え合える場だと思いました。

家族会主催の研修会で、医者から初めて病気について学びました。身体や知的障害の皆

さんの施設を見学しました。そして精神障がいには、まだ必要な施設はまったくないこと、福祉サービスもないことを学びました。さらに、私たち精神障がいを抱える家族は、必要な知識を持っていないことを実感しました。

何年目からでしょうか。私は家族会行事の事務局の仕事に協力するようになりました。会員の皆様のお付き合いと、会の企画・運営が楽しかったからです。いつしか事務局が我が家に移りました。つまり家族会の運営が公営から民営に移ったということです。それは、元から市の方針がそうだったのかもしれませんが。今では、確かめる術もありませんが、しばらくは保健師さんが応援してくれていました。



### 私の家族会活動と職業について

私は、家族会に参加している家族が、当時、泉市に作られていた障害種別を問わない作業所「ふれあいの家」（現在は知的障がいの方を中心としたB型事業所）を中心にして、さまざまな家族会活動を行い、元気になっていくのが分かりました。この施設に、私は母を誘って通い、精神障がいの皆さんを含めて、知的障がいや重症心身障がいの皆さんといっしょに活動したものです。この体験を、家族会をまだ知らない家族にも伝えたいと思いました。会報やパンフレットをたくさん作って、研修・親睦の行事やバザー等をさまざま行ってきました。

周辺の市町でも、私たちと時期を同じくして家族会活動は始まっていました。平成元年には仙台市の2市2町の合併に伴って、家族会も合併し、みどり会が誕生しました。

平成7年に精神保健福祉法が制定されて以降、仙台市周辺には徐々に作業所やグループホーム等が作られるようになりました。

平成10年、私はある社会福祉法人から福祉事業所の職員として働かないかと声をかけられました。それまでは、私は小さな英会話教室を経営し、空いている時間に家族会の仕事をしていたのですが、大いに迷った末に社会

福祉法人の職員として就職する決断をしました。これまで培ってきた知識を生かして障害者福祉に役立ちたいと思ったのです。私が48歳の時でした。

65歳の退職を迎えるまで、法人内の相談支援事業所（当時は地域生活支援センターと言いました。）、福祉作業所（通所授産施設）、宿泊型の生活訓練施設で勤務し、それぞれに提供するサービスの中で多くの当事者や家族と接することができました。

### それぞれの人生

5年前に母は86歳で亡くなりました。その後もなく、私は現役を引退しましたが、今は非常勤として生活訓練施設で夜勤を務めています。

退職の頃から、思っていたことがありました。これからは時間ができる。まだ家族会を知らずにひとり悩んでいる家族に、家族会を知ってほしい、いっしょに元気になってほしいという思いが強くなりました。

わたしには、これまで家族会で学んだ経験と、福祉事業所で働いてきた経験がある。これらを生かして、母は亡くなってしまったけれど、もっとよい家族会にしていきたいと思うようになりました。私のライフワークだと思うようになりました。

年を取り、動けなくなるまで当事者を支え

る家族はたくさんいます。辛さと疲労が重なって、メンタルを含むさまざまな科を受診している家族もたくさんいます。当事者の生活を支え、見守っていくことが親としての義務であると考えていらっしゃるのです。少し前にさかのぼると、精神障がい当事者を支えるサービスはほとんど無かったので、親としては「自分が支えなければ、いったい誰が面倒見てくれるんだ?!」と考えるのは当然です。

私たち家族は、これまで精神医療について必要な教育もないまま、ずっと当事者を支えてきました。当事者を支える精神保健福祉に関する情報も、自ら探し求めないと得られない現実がありました。

しかし今はまだ十分とは言えませんが様々な制度やサービスが整ってきました。そしてそれらを使って、当事者の皆さんのさまざまな場面を支えてくれる支援者がいます。時代は変わったのです。

これから私たち家族は、本人を見守りながらも、家族としてではなく自分らしい生きがいを見出していけるのです。自らの人生を考え、立ち向かっていくことが大切であると思います。

私の場合は、家族会をライフワークに選びました。しかし、それは人それぞれに異なると思います。そんなことを話し合えるのも、また家族会であろうと思っています。

## 平成29年度北海道・東北ブロック家族会 精神保健福祉促進研修会岩手大会に参加して



宮城県精神障がい者家族連合会（宮家連）  
幹事 後藤 くらゑ

今年度の北海道・東北ブロック家族会における岩手大会が、「家族一人ひとりの自立と支え合いの光を求めて」をテーマに、7月23日、24日、大雨の降りしきる中、宮城県からは笠神会長はじめ7名の出席で、盛岡市つなぎ温泉「ホテル大観」を会場に、200人を超える参加者で開催されました。

全国精神保健福祉会連合会（みんなねっと） 本條理事長あいさつ

精神保健福祉の向上について、JR運賃等割引格差是正の国会請願署名を行い、62万筆

に及ぶ署名簿を携え衆参両議院に請願を行いました。残念ながら審議未了となりました。

平成 29 年度も、引き続き請願行動を実施していきます。また、財政基盤の確立に向け、賛助会員の拡大強化や月刊誌『みんなねっと』

の読者確保に都道府県連への支援の充実、ホームページの整理を図っていききたい。

### 基調講演

東洋大学ライフデザイン学部教授 白石 弘巳 先生

「精神障がい者と家族」と題し、先生自身の 20 年来の家族会との関わりの中から得たこと等を話されました。

- ①統合失調症などの人の生活のしづらさ
  - ②親亡き後から親あるうちの自立に向けた課題
  - ③「べてるの家」のメンバーから学ぶリカバリー
  - ④回復した統合失調症の皆さんの言葉から
  - ⑤回復した家族とは
- の 5 項目を取り上げてお話されました。

精神障がいの病は、思春期から成人への成長期に発生しやすく、再発を繰り返す慢性疾患の病で、病気以前と比べると能力や活動意欲など基本的機能の低下が見えづらく分かりにくい、特徴としてストレスや環境の変化に敏感で、重症化すると自分自身をコントロールすることや、薬での対応が困難になりやすくなる。

症状がある中でも、「こころの健康」はあり得る。精神疾患からのリカバリーは、今持っている力を発揮して、前向きに生活している状態であること。そして、病気が治ったから元気になったのではなく、一人で元気になっ

たのでもない。「自立」とは、できることを自分でする。できないことは、人に頼める力を持っていること。本人が生きようとする前向きな姿勢、自分を肯定的に見て、家族からのサポート、良き治療者と仲間に出会う等で信頼関係を持ち、コミュニケーションを図っていくことがリカバリーするうえで一番大切である。そして、回復した家族とは、希望を持ち、本人に正しい療養を行うように伝えられる、医療関係者に不安や不満などを率直に言える、生活設計に沿って家族の人生を楽しむ、世間の偏見からいざという時に外に向け訴えることを持ちそなえていること等が家族の回復と言えるのだと話されました。

これまでは、回復を待ってからの社会参加に視点を置いていたが、病の軽い重いに関わらず、本人と家族は真剣に立ち向かう必要がある。親が元気なうちに世帯分離をし、周りからの支援を受けながら本人が単身生活することで親自身の生活を楽しむことであると話されました。

### 記念講演

(2 日目)

東京都医学総合研究所病院等連携研究センター長

糸川 昌成 氏

先生のお話の感想：「統合失調症が秘密の扉を開けるまで」と題しての講演、統合失調症の原因究明を 30 年余り続けられている研究者で、統合失調症は脳の病気である。「体験は脳からだけ来るのか」「心は脳（遺伝子）と脳以外（知的体験）から」近代科学では、解き明かされない領域である。「生活臨床の中で居心地の良い環境」「人間関係、生活基盤、金銭関係」が

変わることで、当事者本人の状況も変わってくるのだとお話し、医学的用語や専門的な関係者向きの内容で難しいと感じました。

統合失調症の治療薬開発は、治験の段階まで進んでいるとのこと、統合失調症の当事者家族・関係する会場の皆さんから、一日も早く世に出回ることを願っての閉会となりました。

平成 30 年は山形市で開催されます。





## 感謝の気持ちで

みどり会会員 R・F（女性）

娘が病気になった時に、私はこの病気に対して知識がほとんどありませんでした。ただ困惑するばかりで、この先、娘はどうなるのだろうか、治るのだろうかと不安だけが大きく目の前にありました。

その時から、もう20年が経ちました。

ここ数年は、デイケアや作業所などにも通うようになり、病気を理解し合える友人も何人かできました。メールやラインをしたり、時には会ってランチをしながら女子会トークをして楽しい時間も持てるようになりました。

初めの頃は、こうして徐々に回復する時が来るということは、考えられないことでした。ここまで、なんと長い道のりだったんだろうと思います。あっという間の道のりだったようにも思います。

今までたくさんの方と出会いがありました。その一人ひとりの方々に助けていただき、教えていただき、時に気づかせていただき、ここまで導いていただいたのだと思うのです。今こうして「ここにいる」ということに心か

ら感謝しています。皆様、ありがとうございます。

月に1回開催される「家族会」（懇談会）では、皆さんの体験談、今の悩み、時にはうれしいお話などもあり、私自身、元気をもらうことが多く、とても勉強になります。

ある本にとってもステキな言葉がありました。

- ・いつも にっこりほほえみましょ
  - ・いつも 明るい声で話しかけましょ
  - ・いつも 相手の身になって思いましょ
- という言葉です。

当たり前のことかもしれませんが、一番大切なことだと思うのです。

この言葉を忘れず、常に心がけるようにすれば、今、私たちが抱えているさまざまな問題も、少しずつですが、きっと「明るい方へ、明るい方へ」と向かっていくような気がします。そう信じています。

まだまだその道は長く、遠いけれど、皆さまと共に一步一步、歩んでいきたいと思っています。

PS：娘は、一度決まりかけた事業所をやめた後に、自分はやはり無理なく通える所がいいと言って新しくデイケアに通うことになりました。そのデイケアは、B型事業所もありますので、慣れてきたらB型にも通ってみたいと話しています。

親としては、本人の気持ちを尊重して見守ろうと思っています。

## 息子の変調について

みどり会会員 K・T（女性）

失業中の一人息子が仕事を探していました。これからの人生、親亡き後も含め、何をどう生きればいいのか、悶々とした日を過ごしていました。

両親が元気な今なら家を出て一人暮らしも試せると、派遣会社の契約社員になり、関東

に行きました。

初日、仕事終了後、宿舎へ入居。翌日からは徒歩出勤、深夜帰宅という忙しい会社で、土曜日の月2日出勤も給料のうち、期間満了で最後に「協力ありがとう。」とお礼を言われたと喜んでいました。少し前に、次の面接を



受けているので、週末の土日で職場に近い宿舎に引越しになりました。駅から遠い宿舎の時は、レンタル自転車を貸してもらい、それとバスで出勤、早く帰れたときは、一人カラオケをしたり、日曜はテニスクラブに通ったりして楽しみも入れた生活のバランスをとるようにもしました。通勤もレジャーも、車を持ち込めばとも考えましたが、一人で何もかも管理するのは無理と思い、止めていました。

3回目の引っ越しの頃から、自分の行くところには自分を知っている人が何人もいて、こっちを見て話している、電車の中でも道路でも、数人が待ち伏せして何か言って通り過ぎる、組織に見張られているなどと言っていました。

その頃、また新しい宿舎に移り、勤務地も約2時間と遠くなりました。8時出勤だと、遅くても5時には宿舎を出ます。駅まで徒歩10分、途中、コンビニで朝食、電車を2回乗り換え、そこからバスで仕事場に着くという遠さでした。住居は新築アパートで壁が薄く、隣も2階も全部話が聞こえ、モーター音や振動の他、窓は留置場のように上の方にあるだけです。盗聴、盗撮されている形跡もあると

いうので、110番して警察を呼んだりしました。また、24時間眠らせないように喉を締められたり、頭を締めつけて記憶を抜き取られたりなどがあったので、時々ホテルに泊まったりもしました。派遣会社に、宿舎を変えてもらうように何度も連絡しましたが、聞き入れられなかったようです。自分でアパートを探して移りたいという話も聞きましたが、短いスパンでの移動を考えると無理なことでした。

毎晩、電話で様子を聞きながら1年が過ぎて、やっと異動になって宿舎を引っ越した時は、統合失調症の急性期だったようです。

仕事をつづけながらの通院治療は無理と判断し、途中退職の理由は「一身上の都合」と書いて仙台へ戻ってきました。

病気に対する知識は全くなく、専ら図書館通いで調べましたが、制度の組み合わせや活用など分からないことだらけです。

みどり会へも参加して気分を落ちつかせ、参考になる話も聞き、少しでも元気になりたいと思います。

息子は、治療3ヶ月で周りがすっかり静かになったと、求職活動を始めました。

## みどり会施設部会



### ～支援で大切にしている事～

はじめまして、4月より勤務させていただいております。高橋と申します。

私は、支援していく中で利用者自身が考えて行動する機会を大切にしています。工房での生活の中ではプログラムや作業の手順など考える場面はたくさんあります。メンバー同士や家族との関わりの中で発生する悩み、相手の気持ち等いろいろあります。もちろん時には失敗することもあります。しかし、繰り返して行くうちに、失敗した経験から想像も

つかない方法を思いつくことや、次に同じような場面に遭遇した際に対処することができたという方もいます。

利用者から相談や質問を受けた際に助言や答えを伝えるのは簡単です。しかし、〇〇さんがいないと分からない、知らない、出来ないでは生活の幅がどんどん狭いものになってしまい、自分の知っている範囲で考えることのない生活を送ることになります。

利用者の皆さんには工房でのさまざまな体

験を通し、「自分で考えて出来た」を重ね、生活全般において、利用者自身で選択の幅を広

げていけるような支援を今後もしていきたいです。  
(高橋)



### ～活動紹介～

みどり工房永和台は、作業や訓練、プログラム活動、仲間との交流を通して、就労に向けた土台作りや生活する力、人間関係を広げるお手伝いをしています。

作業では8月から9月にかけて地域のお祭りや販売会が多かったので自主製品の作成に力を入れていました。ポーチやブックカバーは商品の色や組み合わせの提案等メンバーが積極的に意見を出して作成に取り組み、販売に参加しています。プログラムである社会参加活動で、実際に店舗に行き、お店のディスプレイや店員の対応を見て学び、アイデア

を出し合いながら販売に臨んでいました。お祭りや販売会で実際に手に取って見てくださるお客様から「いい色合いだね」「素敵ですね」と声を掛けていただき、利用者もうれしそうにしていました。

今後も多くの人の目にとめていただけるような製品を利用者の方々と考案し作成していきたいと思います。

見学、体験利用を受け付けております。  
お気軽にお電話ください。  
みどり工房永和台 : 022-771-5026



## 「みどり工房若林」

みなさん、こんにちは。

前回の会報で「新商品（文具）の企画！！」のお話しさせて頂きました。

みどり工房若林では「ピアノの鍵盤をモチーフにした商品＝‘ショパンチ’」が看板商品で、全国各地にお得意様がいらっしゃいます。西日本エリアでは、京都のお店に卸しています。また、各地のイベントにおいて商品販売の依頼があり、‘ショパンチシリーズ’の商品力！の高さを実感しています。

商品企画・製作には仙台在住のデザイナー佐藤志保さんにサポートを頂きました。

デザイナーさんとは2年目のお付き合いで、



福祉事業所にデザインに関わるのは初めてのことでした。私たちの商品への想いやメンバーのことをきちんと考えて下さる方で、意見交換しながら半年間一緒に仕事をし、ようやく9月に完成しました。→音楽をテーマにしたアイテム「ふせん（50枚綴り）・グランドピアノカード・しおり・ポストカード（音楽家の肖像画を見て、みんなで絵を描きました）」。ユニークな商品もあれば、クラシカルな商品もできました。



※今回の商品企画は「みやぎ生協福祉活動助成金」を活用しています。みやぎ生協様、感謝申し上げます。  
※2「ニッポンハム中元ギフト」にご協力くださったみどり会 会員の皆様、本当にありがとうございました。

9月開催「せんだいクラシックフェスティバル/定禅寺ジャズフェスティバル」での販売会では、定番商品（ペンケースなど）は、もちろん新商品！もお客様に好評いただきました。販売の場で商品をきっかけにお客様と会話が始まり、福祉事業所の商品であることを後お伝えすると「えっ、そうなの。すごいね。利用者の方、頑張っているんですね」「商品のクオリティが高い！一般の商品と変わらないよー」等、言ってくださり、商品を通してメンバーさんの日々の頑張りや福祉事業所や障がいについて知るきっかけにもなっています。

若林では、販売や作業開拓などたくさんの外部団体等と連携して行っています。また、

「つながりを感じられるエピソード」を1つ。互いにとっても嬉しいことでした。

他県の当事者団体と5年ほど交友があります。毎年その皆さんが地元の精神保健福祉大会で工房の商品を仕入れて販売して下さっています。工房にパスケース（パンチングレザー製）の注文がありました。→障害者手帳のサイズって、自治体によって実は大きさが違うのです！そちらでは福祉交通助成として、バス降りる際に手帳を運転手さんに見せなければなりません。障害によって手帳の色が違うそうです。その‘障害者手帳のサイズに合わせての特別オーダー’がありました。そして、

多職種との連携もあり、様々意見を交わしながら新たな視点を持つ機会等も頂いています。

商品を介して、地元のお客様はじめ全国の皆さまとのつながり・商品のブラッシュアップ、販売会の提供をしてくださる中間支援団体や企業様。こうした一般の方から企業様までつながりを持つことはとてもありがたいことです。仕事を通して、この連携はとても大きな強みであり、更なる展開の発想につながったり、楽しさがあります。外部との連携がメンバーさん・スタッフにおいても良い効果が生じていますよ。エフブノイチ運営も、他の4団体との共働運営です。発想も企画も楽しさも5倍以上です。仲間が増えると運営も出来ることも増え、こころ強いです。

オーダーの背景もお聞きしました。

「バス降りる際、他の乗客に手帳を見られるのに抵抗がある。引け目を感じてしまう」と多数の意見があるとのことで、これは仙台のみんなも同じ話を聞くことがあります。（※仙台では電子カードです）‘だからこそ、障害者手帳がちょうどよく入るサイズのパスケースの要望でした！‘ご期待に応じて商品を送るとみなさんから感謝の手紙が工房に届きました。「パスケースに入れることで、見られる感じが減った」「パスケースがとてもカワ



イイので、バスに乗るのが楽しみになった」  
など感想がありました。工房がその方々の日  
常の楽しみの一助になれたこと！「憂うつな  
気持ちが毎日の楽しみに変わったこと」をお  
聞きし、心から嬉しかったです。毎年注文を  
頂くので、その県のメンバーさんに確実に商  
品が拡がり、たくさんの方にお使い頂いてい  
ます。

最近10月に入り、また注文を頂き「気持ちが  
明るくなる色！！でお願いします」とオーダ  
ーがありました。

お手元に届いた際、また1人でも！工房の  
商品で「気持ちが軽くなったり♪楽しみにな  
ったり♪喜んでもらえるといいなあ♪」と思  
い、せっせと作成中です♪



## 研修会のご案内

※このページの研修会は申し込み不要。直接お出かけください。

### 宮城県精神障がい者家族連合会（宮家連）

「精神障がい者家族間の支援者養成研修」～当事者本人の声を聞こう～

#### 講話「こころの病を経験した当事者から見た家族」

講 師 仙台スピーチビューローの皆さん

- と き 平成29年11月15日（水） 10:30～12:30
- と ころ 仙台市シルバーセンター 6階 第2研修室  
（仙台市青葉区花京院1-3-2）

### 第63回宮城県社会福祉大会

#### 記念講演 演題「がんばらないけどあきらめない」

講 師 鎌田 實 氏

- と き 平成29年11月21日（火） 13:00～15:30
- と ころ 仙台サンプラザホール （仙台市宮城野区榴岡5-11-1）

### みどり会家族研修会

#### 「メリデン版訪問家族支援-3」

～訪問により精神障がい当事者と家族をまるごと支援  
その後の日本での取り組みを紹介する～

講 師 宮城大学看護学群 小松 容子氏

- と き 平成29年11月29日（水） 14:00～15:50
- と ころ 仙台市福祉プラザ 10階 第2研修室（地下鉄五橋駅下車すぐ）



## 「家族「まるごと」支援と家族のリハビリ in 仙台」

### ～それぞれの立場の困難とピアサポート～

- と き 平成 29 年 12 月 2 日 (土) 13:00～16:00
- と ころ 仙都会館 8 階 会議室 (仙台市青葉区中央 2-2-10)
- 参加要領 申し込みは下記により 11 月 12 日まで / 参加費が必要です。
- 情報確認のアドレス [https://www.comhbo.net/?page\\_id=15033](https://www.comhbo.net/?page_id=15033)

## ～ これからの「みどり会懇談会」開催の予定 ～

精神障がいの当事者を抱える家族同士が自由に参加し、  
相談したり、情報交換したり、意見を述べ合っています。  
みどり会会員に限らず、どなたでも気軽にお出かけ下さい。

平成 29 年 9 月版

10月29日	日曜日	午前9:30～12:00	仙台福祉プラザ	10階 第4研修室
11月19日	日曜日	午前9:30～12:00	仙台福祉プラザ	10階 第4研修室
12月24日	日曜日	午前9:30～12:00	仙台福祉プラザ	10階 第3研修室
1月28日	日曜日	午前9:30～12:00	仙台福祉プラザ	10階 第4研修室
2月25日	日曜日	午前9:30～12:00	仙台福祉プラザ	10階 第3研修室
3月31日	土曜日	午前9:30～12:00	仙台福祉プラザ	10階 第3研修室

\*会場のお間違いないよう、お気をつけください。

□みどり会懇談会の後、「お昼の会」の実施について ～ご利用ください～

- ・平成 29 年 6 月より、毎月「お昼の会」を行っています。
- ・時間は 12 時～14 時。懇談会后、ゆっくり息抜きをしていただくのが目的です。
- ・参加は自由。弁当を食べるなり、お茶のみや雑談なり、ご相談もどうぞ。

□会の運営は、皆さまからの会費 (年間 4,000 円) で成り立っています。ご協力をお願いいたします。 ※なお、会費には県の上団体「宮家連」の会費 1,500 円が含まれています。



〒984-0826 仙台市若林区若林2-5-5 SKビル 2F みどり工房若林内

NPO 法人 **みどり会事務局**

法人代表電話 022-762-7610 ファックス 022-762-7611 ホームページ <http://s-midorikai.org/>

家族会専用電話 (会員関係の連絡先) 080-2812-4835 (受付時間 9時～17時)